

■市民意識調査項目（案）

問	設問	選択肢	経年比較	数値目標	次期計画の想定課題
家庭内の役割分担について					
1	「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、どう思いますか <u>（○は1つ）</u>	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない	○		・男女平等感の意識と実際の役割分担の乖離解消が必要
2	ご家庭での役割分担はどうなっていますか。最も近いものを1つお選びください。 <u>（○は1つ）</u>	1. 男性は仕事、女性は家事・育児を分担している 2. 男性は仕事、女性は家事・育児に差し支えない範囲で仕事をしている 3. 男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性が分担している 4. 男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している 5. 女性は仕事、男性は家事・育児を分担している 6. その他（*） 7. 分担するような相手がいない	○		
ワークライフバランスについて					
3	あなたは、地域活動や社会活動などに参加していますか。 <u>（○はいくつでも）</u>	1. 自治会・町内会・子ども会などの委員をしている 2. 民生委員など国や地方自治体の委員をしている 3. 保護者会やPTAの委員をしている 4. 青少年の健全育成に関わる活動の指導者やリーダーをしている 5. NPO、ボランティア活動をしている 6. 消防団や防犯パトロール隊など、地域の防災・防犯活動に参加している 7. 地域の中で趣味・スポーツ等の会やグループに参加している 8. その他（*） 9. 参加していない	○	数値目標 Ⅱ-3-2 50%	・ワークライフバランスの理想と現実との乖離解消が必要 ・ワークライフバランスを進めるには、職場の理解が必要
3-1	（問3で9とお答えの方に） 地域活動や社会活動に参加していない理由は何ですか。 <u>（○はいくつでも）</u>	1. 仕事が忙しくて余裕がない 2. 家事、育児、介護などが忙しくて余裕がない 3. 家族の理解・協力が得られない 4. 参加したい活動がみつからない 5. 参加方法がわからない、きっかけがない 6. 関心がない 7. 人間関係がわずらわしい 8. 健康に自信がない 9. その他（*） 10. 特になし	○		
4	生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の希望に最も近いものを1つだけお選びください。 <u>（○は1つ）</u>	1. 「仕事」を優先したい 2. 「家庭生活」を優先したい 3. 「地域・個人の生活」を優先したい 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	○	数値目標 Ⅱ-1-1 50%	
5	生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の現実（現状）に最も近いものを1つだけお選びください。 <u>（○は1つ）</u>	1. 「仕事」を優先している 2. 「家庭生活」を優先している 3. 「地域・個人の生活」を優先している 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	○		
6	男性と女性がともに家事、子育て、介護、地域活動を積極的に担うためには、どのようなことが必要だと思いますか。 <u>（○はいくつでも）</u>	1. 男性が家事や地域活動へ気軽に参加できるよう、啓発や身近な情報・相談窓口の提供をする 2. 男性が家事や子育てなどを担うことに対する評価を高める 3. 男性が仕事中心の考え方を改め、家事などを担うことに対する抵抗感をなくす 4. 女性が、男性が家事などを担うことに対する抵抗感をなくす 5. 男性が子育てや介護、地域活動を活発に行うことができるよう、仲間（ネットワーク）づくりを支援する 6. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる 7. 仕事と家庭の両立を支援するための保育や介護の体制（育児・介護休業制度など）を充実する 8. 企業が、男女ともに家庭と仕事を両立できる職場環境（労働時間の短縮や労働時間を比較的自由に設定できるフレックスタイムの導入、育児休業をとりやすい雰囲気づくり等）を整える 9. 在宅勤務など、多様な働き方を進めることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする 10. その他（*）	○		

■市民意識調査項目（案）

問	設問	選択肢	経年比較	数値目標	次期計画の想定課題
子育て・介護について					
新設 7	子育ての役割についてどう思いますか。 (○は1つ)	1. 子育ては体力が必要なので男性が積極的に取り組むほうがよい 2. 男性が中心になり女性も手助けするのがよい 3. 男性も女性も同じように分担するのがよい 4. 女性が中心になり男性も手助けするのがよい 5. 子育ては女性の役割だと思う 6. その他 (〆) 7. わからない			子ども部署のアンケート調査結果 (2025年3月)によると、実際の子 育て役割分担は母親が多いため、理 想と現実の乖離解消が必要
8	(介護が必要な家族がいる方のみお答えください) あなたの家庭では、その方の介護は、主にどなたが 行っていますか。 (介護される方から見た続き柄をお選びください)	1. 配偶者 2. 娘 3. 息子 4. 息子の配偶者 5. その他の家族 6. ホームヘルパーなどの在宅介護サービスを利用している 7. 高齢者向け施設や病院に入所している 8. その他 (〆)			介護における男女平等感と現実の役 割との乖離解消が必要
9	家庭での高齢者や病人の介護の役割について、どう思 いますか。 (○は1つ)	1. 介護は体力が必要なので男性が積極的に取り組むほうがよい 2. 男性が中心になり女性も手助けするのがよい 3. 男性も女性も同じように分担するのがよい 4. 女性が中心になり男性も手助けするのがよい 5. 介護は女性の役割だと思う 6. その他 (〆) 7. わからない	○		
教育について					
10	男女平等を推進していくために、学校教育ではどのよ うなことに力を入れれば良いと思いますか。 (○はいくつでも)	1. 男女平等の意識を育てる授業をする 2. 日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をする 3. 生活指導や進路指導において、男女の区別なく個性や能力をいかせるよう配慮 する 4. 教職員への男女平等研修を充実する 5. 校長や副校長などの役職に就く女性を増やしていく 6. 男女がお互いの性と健康に理解を深め、人権を尊重する性教育を充実する 7. 男女平等教育への保護者の理解を深める 8. その他 (〆) 9. 特にない	○		教育現場で求められる取組を把握す る

■市民意識調査項目（案）

問	設問	選択肢	経年比較	数値目標	次期計画の想定課題
就労について					
11	あなたの職業を1つお選びください。複数あてはまる場合は、主なものをお選びください。（出産休暇や育児・介護休暇中の方も含む） <u>（〇は1つ）</u>	1. 自営業・自由業・家族従業員 2. 常勤（正社員、フルタイム） 3. 契約社員・派遣社員・パート・アルバイト 4. その他（〆） 5. 職業には就いていない（専業主婦、学生など）			女性就労の賛同率は高いが、実際の職場環境にはいまだに男女不平等が存在しているため、改善が必要
12	（問10で1、2、3とお答えの方に） あなたの職場では、次のようなことがあると感じますか <u>（〇はいくつでも）</u>	1. 募集・採用に男女差がある 2. 賃金に男女差がある 3. 昇進・昇格に男女差がある 4. 職務内容・配置に男女差がある 5. 教育訓練・研修に男女差がある 6. 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある 7. 育児休業がとりにくい 8. 女性も男性と同じように時間外労働や深夜勤務がある 9. その他（〆） 10. 女性と男性で違いはない	○		
13	女性が職業を持つことについてどうお考えですか。 <u>（〇は1つ）</u>	1. 女性は職業を持たない方がよい 2. 結婚するまでは職業を持ち、結婚後は家事に専念した方がよい 3. 子どもができるまでは職業を持ち、子どもができたら家事・育児に専念した方がよい 4. 子どもができたら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業を持つ方がよい 5. 結婚・出産にかかわらずずっと職業を持つ方がよい 6. その他（〆） 7. わからない	○		
14	女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。 <u>（〇はいくつでも）</u>	1. 育児・介護休業制度の普及を図る 2. 保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実する 3. 地域で子育てを支援する仕組みをつくる 4. 高齢者や病人の世話を支援する制度やサービスを充実する 5. 家族の中での理解を深める 6. 上司や同僚の子育てに対する理解を深める 7. 結婚・出産退職の慣習をなくす 8. 労働時間の短縮等の労働条件を改善する 9. 昇進・賃金・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱いをなくす 10. 男性の家事や育児を行う意識や能力を高める 11. その他（〆） 12. わからない			・女性が働きやすくするために、柔軟な勤務形態や育児・介護休業制度の充実が必要。 ・男性も育児休業が取得しやすい取組が必要
13	子育てや介護によりいったん離職した女性が再就職や起業にチャレンジするためには、どのようなことが必要だと思いますか。 <u>（〇はいくつでも）</u>	1. 気軽に相談できる窓口の充実 2. 育児や介護により退職した職員をもとの会社で再雇用する制度の導入 3. 個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務など）の導入 4. 再就職準備のためのセミナーや能力向上のための学習機会の提供 5. 女性の起業に関する情報提供や相談体制 6. 企業における事業所内の託児施設の整備 7. 地域の保育園、学童保育などの保育サービスの充実 8. 高齢者や病人の世話を支援する制度やサービスの充実 9. 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力 10. 男性の家事や育児を行う意識や能力を高める 11. その他（〆） 12. わからない	○		
14	育児を行うために、自分自身が「育児休業制度」を利用することについてどう思いますか。（現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。） <u>（〇は1つ）</u>	育児休業制度について 1. 利用したい3. 利用したくない 2. 利用したいが利用できそうにないと思う4. わからない	○		
15	家族介護を行うために、自分自身が「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。（現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。） <u>（〇は1つ）</u>	介護休業制度について 1. 利用したい3. 利用したくない 2. 利用したいが利用できそうにないと思う4. わからない	○		
16	男性が育児休業をとることについて、どう思いますか。 <u>（〇は1つ）</u>	1. 男性が育児休業をとる必要はない 2. 育児休業は取りやすい方がとればよい 3. 男性も一定期間、育児休業を取るようにした方がよい 4. その他（〆）	○		

■市民意識調査項目（案）

問	設問	選択肢	経年比較	数値目標	次期計画の想定課題
人権について					
17	あなたは、これまでに次のような「セクシュアル・ハラスメント」を受けた経験がありますか。 <u>（○はいいくつでも）</u>	1. いやがっているのに卑わいな話やわい談を聞かされた 2. 「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた 3. 身体をさわられた 4. 宴会などでお酌やデュエットを強要された 5. 交際を強要された 6. 性的なうわさをたてられた 7. 結婚や交際についてしつこく聞かれた 8. 容姿について傷つくようなことを言われた 9. 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした 10. プライバシーに関することや性的な内容の手紙や電話を受けた 11. ノード写真や卑わいな雑誌を目につくところに置かれたり、貼られたりした 12. その他（※） 13. 特にない	○	数値目標 1-2-3 70%	ハラスメントは重大な人権侵害のため、継続的な防止、被害者支援が必要
18	あなたは、次のようなことが配偶者（事実婚や別居、離別を含む）やパートナー・恋人の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。（ア）～（コ）のそれぞれについて、「1」～「3」のうちあなたの考えに近い番号に○をつけてください。 <u>（○はそれぞれ1つずつ）</u>	1. どんな場合でも暴力にあたると思う 2. 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う 3. 暴力にあたるとは思わない （ア）命の危険を感じるくらいの暴力 （イ）身体を傷つけられたり、傷つけられる可能性のある行為 （ウ）何を言っても無視すること （エ）「誰のおかげで食べられるんだ」などと言うこと （オ）大声で怒鳴ること （カ）大切にしているものをわざと壊したり、捨てたりすること （キ）生活費を渡さないこと （ク）交友関係や電話、メールなどを細かくチェックすること （ケ）望まない性行為の強要 （コ）避妊に非協力	○	数値目標 値 1-2-1 85%	
19	あなたは、今までに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）やパートナー・恋人などから次のような行為を受けたことはありますか。（ア）～（サ）のそれぞれについて、1～3のうちあてはまる番号に○をつけてください。 <u>（○はそれぞれ1つずつ）</u>	1. 何度もあった 2. 1、2度あった 3. まったくない （ア）命の危険を感じるくらいの暴力 （イ）身体を傷つけられたり、傷つけられる可能性のある行為 （ウ）何を言っても無視されること （エ）「誰のおかげで食べられるんだ」などと言われること （オ）大声で怒鳴られること （カ）大切にしているものをわざと壊されたり、捨てられたりすること （キ）生活費を渡さないこと （ク）交友関係や電話、メールなどを細かくチェックされること （ケ）望まない性行為の強要 （コ）避妊に非協力 （サ）その他（ ）	○	数値目標 値 1-2-2 40%	
19-1	（問19（ア）～（サ）のうち1つでも「1. 何どもあった」「2. 1、2度あった」とお答えした方に） あなたはこれまでに相手から受けた行為について誰かに伝えたり、相談したりしましたか。 <u>（○は1つ）</u>	1. 相談した 2. 相談しなかった（できなかった）	○		
19-1-1	（問19-1で1とお答えした方に） 誰（どこ）に相談しましたか。 <u>（○はいいくつでも）</u>	1. 親族 2. 友人・知人 3. 同じような経験をした女性やグループ 4. 民間の支援団体 5. 家庭裁判所、弁護士 6. 警察署 7. 東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センター 8. 市役所等の相談窓口・電話相談など 9. 医師、カウンセラーなど 10. その他（※）	○		
19-1-2	（問19-1で2とお答えした方に） 誰にも相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。 <u>（○はいいくつでも）</u>	1. 相談できる人がいなかったから 2. どこに相談してよいのかわからなかったから 3. 相談しても無駄だと思ったから 4. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから 5. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから 6. 自分さえ我慢すればこのままやっていけると思ったから 7. 他人を巻き込みたくなかったから 8. 自分にも悪いところがあると思ったから 9. 相談するほどのことではないと思ったから 10. 相談した相手の言動により、不快な思いをと思ったから 11. 子どもに危害が及ぶと思ったから 12. その他（※） 13. 特にない	○		
20	あなたは、「ドメスティック・バイオレンス（DV）（※）」に対する対策や援助として、特にどのようなものを充実すべきだと思いますか。 <u>（○はいいくつでも）</u> ※ドメスティック・バイオレンス（DV）とは、配偶者や恋人など親密な関係にある、または過去にあった人からふるわれる暴力（身体的・心理的・性的）、という意味で使われています。	1. 家庭内であれ、暴力は犯罪となる行為を含む重大な人権侵害である、という意識を啓発する 2. いざという時に駆け込める緊急避難場所（シェルター）を整備する 3. 相談体制を充実し、理解のある専門スタッフを常駐させる 4. 住居や就労斡旋、経済的援助など、生活支援を充実する 5. カウンセリングや日常的な相談など、精神的援助を充実する 6. 関連機関の紹介や暴力への対応方法など、ドメスティック・バイオレンスに関する情報提供を充実する 7. 法律による規制の強化や見直しを行う 8. 加害者に対する厳正な対処や更生に関する対応を充実する 9. その他（※） 10. わからない	○		

■市民意識調査項目（案）

問	設問	選択肢	経年比較	数値目標	次期計画の想定課題
性の多様性について					
21	あなたは、性的マイノリティ（性的少数者）という言葉を知っていますか。 <u>（○は1つ）</u>	1. 内容まで詳しく知っている 3. 言葉は聞いたことがある 2. おおよそ知っている 4. 知らなかった		数値目標 1-1-2 80%	正しい知識の習得や理解を促進することで、継続的な性的マイノリティの方への支援が必要
22	あなたは、身近な人から同性愛者やトランスジェンダーなどであると打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができそうですか。 <u>（○は1つ）</u>	1. できそう 3. わからない 2. できないかもしれない			
23	あなたは、今まで自分の性別や恋愛対象となる性別などについて悩んだことはありますか。 <u>（○は1つ）</u>	1. 悩んだことがある 3. あまり悩んだことはない 2. 多少悩んだことがある 4. 悩んだことはない			
新設 24	性的マイノリティの人々に対する偏見がなくなり、社会で生活しやすくするためには、何が必要だと思われますか。 <u>（○はいくつでも）</u>	1. 啓発リーフレット等の作成・配布 2. ホームページやX（エックス）、Facebook（フェイスブック）、Instagram（インスタグラム）を活用した情報発信 3. 相談できる窓口の設置 4. 性的マイノリティの方と交流できる場づくり 5. 性的マイノリティの方同士が交流できる場づくり 6. 性別に関係なく使用できる更衣室や制服の選択制などの配慮 7. 書類やアンケート等における性別欄の見直し 8. 性の多様性を理解するための学校教育 9. 市民向け講座等の開催 10. 行政職員や教職員等への研修の実施 11. その他（具体的にお書きください）			
防災対応について					
25	災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対応として、どのようなことが重要だと思いますか。 <u>（○はいくつでも）</u>	1. 女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する 2. 防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする 3. 災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する 4. 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を入れる 5. 消防職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する 6. 避難施設の設備や備品に女性や性的マイノリティ（性的少数者）等の意見を反映させる 7. その他（ ） 8. わからない			男女平等参画の視点に立って防災、復興にも取り組むことが必要
女性活躍推進について					
26	まちづくりや福祉など、市のこれからの政策や方針を決定する場の一つに審議会があります。町田市では、市で設けている審議会などの女性委員の比率は30.7%です（2025年4月1日現在）。このことについて、あなたはどのように思いますか。 <u>（○は1つ）</u>	1. 今のままでよい 2. もう少し女性が増えた方がよい 3. 男女半々くらいまで女性が増えた方がよい 4. 性別にこだわる必要はない 5. その他（ ）	○		意思決定過程に男女が共に参画できるように継続的な女性の活躍を促進する取組が必要
27	働く場における女性の管理職への登用など、女性の参画を促すには、どのような支援が必要だと思いますか。 <u>（○はいくつでも）</u>	1. 企業における女性の採用・登用の促進 2. 女性の登用について具体的な目標値の設定 3. 女性のロールモデルの発掘・活躍事例の提供 4. 女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実 5. 男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援 6. 女性の管理職への支援 7. 保育・介護の支援などの公的サービス 8. その他（ ） 9. わからない			
28	政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。 <u>（○はいくつでも）</u>	1. 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと 2. 女性自身がリーダーになることを希望しないこと 3. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと 4. 長時間労働の改善が十分ではないこと 5. 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること 6. 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと 7. 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと 8. 家庭、職場、地域などに性別役割分担、性差別の意識による慣習があること 9. その他（ ） 10. 特にない 11. わからない			

■市民意識調査項目（案）

問	設問	選択肢	経年比較	数値目標	次期計画の想定課題
男女平等について					
29	次にあげる分野において女性と男性が平等になっていると思いますか。（ア）～（ク）のそれぞれについて、1～6のうちあなたの感じ方に近い番号に○をつけてください。 （○はそれぞれ1つずつ）	1. 男性の方が非常に優遇されている 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている 3. 平等である 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている 5. 女性の方が非常に優遇されている 6. わからない （ア）家庭生活 （イ）職場 （ウ）学校教育の場 （エ）自治会やPTAなどの地域活動の場 （オ）政治の場 （カ）法律や制度の上 （キ）社会通念・慣習・しきたりなど （ク）社会全体として	○	数値目標 Ⅱ-1-2 20% 30%	依然としてまだ男性が優遇されている分野があるため継続的な取組が必要
30 用語変更	次の法律や言葉を知っていますか。（ア）～（サ）のそれぞれについて、1～4のうちあてはまる番号に○をつけてください。 （○はそれぞれ1つずつ）	1. 内容まで詳しく知っている 2. おおよそ知っている 3. 言葉は聞いたことがある 4. 知らなかった （ア）男女共同参画社会 （イ）アンコンシャス・バイアス （ウ）SOGI （エ）女性活躍推進法 （オ）アウティング （カ）困難な問題を抱える女性への支援に関する法律 （キ）ジェンダー平等 （ク）リプロダクティブ・ヘルス/ライツ （ケ）ポジティブ・アクション （コ）ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） （サ）町田市男女平等参画都市宣言 （シ）町田市性の多様性の尊重に関する条例 （ス）町田市パートナーシップ宣誓制度	○		認知度の低い言葉もあり、男女平等参画の継続的な意識啓発が必要
31	男女平等参画社会を実現していくために、今後、町田市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。 （○はいくつでも）	1. 男女平等参画を進めるための意識を啓発する 2. 学校教育を始めとしたあらゆる教育の場における男女平等教育を推進する 3. 政策・方針決定の場などへの女性の積極的な参画を進める 4. 男女がお互いの性と健康を尊重し、理解を深めるための事業を充実する 5. L G B T などの性の多様性に関する理解促進を行う 6. 防災の現場（避難施設など）において、男女平等参画を推進する 7. 公共の場における性差別を助長する表現やいきすぎた性表現を是正する 8. 子育て支援を充実する 9. 高齢者介護に関する施策・サービスを充実する 10. 男女平等推進団体やN P O（継続的・自発的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体）との連携を進める 11. 育児・介護休業制度の利用促進や男女均等待遇の徹底など、働く環境を改善する 12. 女性に対するあらゆる暴力を根絶するよう啓発を進める 13. 女性悩みごと相談やL G B T 相談など、各種相談事業を充実する 14. 男女平等参画に関する苦情解決のための機関を設置する 15. 「町田市男女平等推進計画」を着実に推進し、計画の定期的な見直しを行う 16. 町田市男女平等参画条例の制定 17. その他（ ） 18. 特にない			市として優先的に取り組まなければならない事業を把握する
町田市男女平等推進センターについて					
32	町田市男女平等推進センター（※）を中心に以下のような事業展開をしています。この中で、今後特に重点的に行うべきだと思う事業はどれでしょうか。 （○はいくつでも） ※町田市男女平等推進センターでは、町田市男女平等推進計画をもとに、男女が平等で一人ひとりが個性と能力を発揮できるよう、各種講座の開催、情報の提供、市民の活動の場の提供及び相談事業を実施しています。	1. 家庭生活における家事・育児等への男性の参加を促す事業 2. 女性の就労支援を目的とした事業 3. 男女平等参画に関する意識啓発のための講座の開催や情報紙の発行 4. 男女平等参画を進める市民や市民団体への活動場所の提供 5. 男女ともに自立した生活を送るための料理や工作等の実技講座の開催 6. 家庭、仕事、人間関係、健康などについての相談事業 7. 男女平等参画に関する図書・資料の提供 8. 人権尊重や女性への暴力根絶のための意識を啓発する講演会などの開催 9. 男女平等を推進するボランティアや市民団体への支援 10. まちだ男女平等フェスティバルの開催 11. 「パートナーシップ制度」の導入など、性の多様性に関する理解促進 12. ワーク・ライフ・バランスを推進している事業所を表彰する事業 13. その他（ ） 14. 特にない			男女平等推進センターが優先的に取り組まなければならない事業を把握する
33	町田市男女平等推進センターの事業（問33）を1つでも知っていましたか。 （○は1つ）	1. 知っていた 2. 知らない		数値目標 Ⅰ-1-1 30%	

■市民意識調査項目（案）

問	設問	選択肢	経年比較	数値目標	次期計画の想定課題
あなたご自身のことについて					
F 1	あなたの性別は	1. 女性 2. 男性 3. その他			
F 2	あなたの年齢は	1. 10歳代 4. 40歳代 7. 70歳以上 2. 20歳代 5. 50歳代 3. 30歳代 6. 60歳代			
F 3	あなたは結婚していますか	1. している（事実婚を含む） 2. していない（離別・死別など） 3. していない（未婚）			
F 3－1	F 3 1. している（事実婚を含む）を選んだ方	夫婦の働き方 1. 共働き 2. 夫だけ働いている 3. 妻だけ働いている 4. 夫婦とも無職			
F 4	あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。ご自分の立場（自分が親、自分が子ども）にかかわらず、世帯構成をお答えください。	1. ひとり暮らし 4. 親と子ども夫婦（二世大家族） 2. 夫婦のみ（一世大家族） 5. 親と子どもと孫（三世大家族） 3. 親と未婚の子ども（核家族） 6. その他（*）			
	最後に、町田市の男女平等についてのご意見やご要望を自由にお書きください。				